



第12回村上記念「胃と腸」賞贈呈式が行われた早期胃癌研究会会場

第12回村上記念「胃と腸」賞贈呈さる

第12回村上記念「胃と腸」賞は、次の論文に贈られた。

「大腸 villous tumor の病理診断—
生検診断、癌化の問題を含む」

岩下 明德¹⁾ 飯田 三雄²⁾ 岩下 俊光³⁾
森 正樹³⁾ 村山 寛⁴⁾

- 1) 松山赤十字病院病理 2) 九州大学医学部第2内科
3) 九州大学医学部第2病理 4) 福岡大学医学部第1病理

「胃と腸」第21巻 第12号：1303-1316頁，1986年

贈呈式は7月15日，早期胃癌研究会7月度例会(東京・エーザイ本社ホール)にて行われた。例会幹事の望月福治氏(仙台市医療センター)より，受賞論文が紹介された後，白壁彦夫氏(早胃検，順大)が，「胃と腸」賞に「村上」名を冠した経緯を説明。とりわけ“自由闊達，言いたい放題の趣きを呈しながらも，優れて専門的かつ最高水準の早期胃癌研究会の中であって，長年月そのヘッドを務めてこられた村上忠重氏を称揚する意を込めた”賞であることの説明が行われた後，賞状，賞牌，賞金が贈呈された。

次に祝詞・選考経過が中澤三郎氏(名大第2内科)より述べられ，①論文の originality，②論旨の一貫性・高度な水準，③臨床に対する寄与，などの諸点，就中，生検の問題がクリアに記述されている点は特筆すべきものと講評された。

最後に，受賞者を代表して岩下明德氏は，“榮譽ある大賞であり，喜びであると同時に責任を負わされた感があり，今後とも精進したい”旨の答辞が述べられた。



「胃と腸」編集委員会代表白壁氏より賞状を受ける岩下氏



選考経過を述べる中澤氏



受賞の弁を語る岩下氏